

「百日咳」の流行に注意！

百日咳は、百日咳菌による急性気道感染症です。患者の咳やくしゃみなどの飛沫や痰に含まれる細菌によって感染（飛沫・接触感染）します。予防接種を受けた年長児や成人では多くの場合、長引く咳のみで命にはかかりませんが、生後3ヶ月未満の乳児等、予防接種未接種児では重症になり、死亡する危険性があります。下記の感染防止対策と早期受診に努め、赤ちゃんを百日咳菌の感染から守りましょう。

○ 流行状況

全国的に2019年は昨年を上回るペースで流行しています。

	2018年	2019年
全 国	12,104件	11,546件* ¹
長崎県	17件	24件* ¹
五島市	0件	5件* ²

*1 2019年9月1日現在 国立感染症研究所感染症情報センター集計結果

*2 2019年9月4日現在 長崎県五島保健所届出受理件数

赤ちゃん
と接する時は
マスクをしてね！



○ 潜伏期間と症状

6～20日（通常7～10日）の潜伏期間の後、風邪様症状からしだいに咳が著明になり、典型的には連続性の咳（短い咳が連続する場合や息を吸うときに笛の音のようなヒューとした音がする場合もあります）が2週間以上続きます。発熱はないか、微熱です。新生児や乳児では典型的な症状が出現しないことも多く、無呼吸発作からチアノーゼになり、けいれんや呼吸停止等の重症になることもあり注意が必要です。

○ 診断・治療等

百日咳は、百日咳菌の遺伝子を検出する検査や血液検査等で以前よりも感染を早期に診断できるようになりました。治療はマクロライド系抗生物質の内服が推奨されています。無治療の場合は発症後約3週間感染力が持続します。

○ ワクチン等

百日咳は感染力が強いため、ワクチン接種による予防が最も効果的です。

○ その他

学校保健安全法では、学校感染症（第2種）として、原則「特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌薬による治療が終了するまで」は出席停止です。

▼ 感染拡大を防止するために

- ・ 生後3ヶ月になったら、速やかに四種混合ワクチンを接種しましょう。
- ・ 長引く咳等の症状がある場合は、医療機関を受診し検査を受けましょう。
- ・ 咳がある場合、赤ちゃんに接する時は特に、手洗い、マスク等咳エチケットに努めましょう。